



N S T

第20号 平成26年2月発行
チクバ外科・胃腸科・肛門科病院 NST

LETTER



脂肪乳剤のQ & A



現在、三大栄養素の一つである脂肪の重要性が認識され、静脈栄養時の原則使用が標準化されております。当院でも脂肪乳剤の使用が増加傾向にあります。

そこで今回は脂肪乳剤の様々な疑問にお答えしたいと思います。

Q1 脂肪を取らないとどうなる？

A1 2,3週間で必須脂肪酸欠乏症(皮膚障害、免疫異常、成長遅延、動脈硬化などの全身的な生体活動の障害)になると言われています。

また脂肪の摂取不足もしくは糖質の過量摂取により、肝臓で炭水化物から脂肪が作られ、その脂肪が肝臓に蓄積され脂肪肝となり、肝機能障害を起こします。

Q2 重症感染症に良くない？

A2 急速に大量投与すると免疫能が低下するとされ添付文書上も慎重投与となっておりますが、適量を至適時間で投与すると問題はないとされています。

Q3 血栓症には大丈夫？

A3 脂肪乳剤の急速投与で血管が収縮し、血栓症を起こす可能性があるため添付文書上禁忌もしくは慎重投与とされていますが、A2同様に適正な投与方法であれば問題はありません。

Q4 肝機能障害の患者には使用できる？

A4 重篤な肝機能障害を認める際は禁忌となっておりますが、適正使用では問題ないとされています。ヨーロッパでは急性肝炎における脂肪投与は推奨されています。

Q5 呼吸障害の患者にも使える？

A5 重症呼吸障害の患者に急速大量投与すると悪化するよう添付文書上慎重投与となっておりますが、適正使用では問題ありません。

むしろ、脂肪乳剤は二酸化炭素産生を抑制するため、投与が推奨されるケースもあります。